

「海山川の恵みと人が輝く やすらぎのまち」を目指して

はじめに

能美市は、石川県加賀平野の中
央に位置し、日本海から里山まで
自然豊かなまちです。

平成17年2月1日に平成の大合
併により旧能美郡4町の中の根上
町、寺井町、辰口町の3町が対等
合併して誕生した合併9年目のま
だ若い市ですが、これからの能美
市を担う子育て世代への福祉施策
や生活基盤の充実に努め、魅力
アップを図ってきました。おかげ
さまで、人口も徐々にではありますが
増加しており、今年の「住み
よさランキング2013」で能美
市は第19位と躍進することができ
ました。

また、伝統的工芸品「九谷焼」の
産地であり、かつ手取川の扇状地
という地の利を生かし、水稲や特

産の「丸いも」栽培などの農業のほ
か、積極的な企業誘致により、も
のづくりのまちとしても、着実に
前進していると思っております。

伝統工芸を発信する

経済の停滞は高級品である伝統
工芸にも大きな影響を与えます。
九谷焼も例に漏れず、販売額の落
ち込みや職人の高齢化による廃業
などにより、生産高は減少し続け
ている状態です。しかし、今も
「ジャパネクタニ」として世界に称
賛されるこの九谷焼を守り、発展
させ、そして身近に感じてもらう
ために、官民協力して、商品開発
やPRを行っています。

中でも人気となっているのが、
絵付け体験用の「九谷焼ウルトラマ
ンシリーズ」です。ウルトラマンの
脚本を手掛けた故佐々木守氏が本

もたちの医療費の無料化も2年前
から18歳まで拡充しました。妊娠・
出産のため生じた疾病の医療費の
無料化なども実施しています。ま
た、育児に関する相互援助活動を
実施するファミリー・サポートセ
ンター事業の展開や保育施設の充
実強化と待機児童ゼロを実現し、
子を持つ親から大変喜ばれ、定住
人口の増大にもつながっていると
ころであります。

市内観光資源の掘り起こし

市内には文豪・泉鏡花が愛した、
開湯1400年の辰口温泉のほ
か、先述の九谷陶芸村のほかトキ
の分散飼育を手掛ける「いしかわか
物園」や「辰口丘陵公園」「手取
フィッシュランド」などがありま
す。この本市全体の自然をゆつく
り楽しんでいただくことも滞在型
の観光の重要なポイントと考え、
平成24年より、北陸最大級の前方
後円墳を有する能美古墳群や九谷
焼の歴史探訪ツアー、平成の名水
百選に選ばれた「遺水観音山霊水」
や市内屈指の景勝地「七ツ滝」、産
卵時期にルリイトトンボの姿が見
られる「蟹淵」などの水を巡るツ
アーなどモニターツアーを実施し、

市の出身であったことから、市の
若手職員の提案により平成23年度
に事業を立ち上げました。

円谷プロ監修の下、ウルトラマ
ンや怪獣など現在9種類のフィ
ギュアがあり、本市泉台町の九谷
陶芸村にある九谷焼陶芸館で気軽
に絵付け体験を行うことができま
す。今では何度も足を運んで絵付
けをされるリピーターも増えてい
ます。

平成26年は、第106回となる
「九谷茶碗まつり」も会場を九谷陶
芸村に移転して開催されます。毎
年5月3日～5日に開催されるこ
の祭りは、例年20万人以上の観光
客でにぎわいますが、平成26年は
これまで以上に新会場で祭りを楽
しんでいただけるよう九谷焼業界
とともに盛り上げていきたいと考
えています。

手応えを感じているところです。
また、平成27年春の北陸新幹線金
沢開業に向けて、アートを切り口
に観光誘客する能美市観光アク
ションプランも策定し、今後また
ます本市の観光PRに努めてまい
ります。

むすびに

住民ニーズが多様化し、行政だ

知と産業を創出する ものづくりのまち

本市の産業は、国内有数の先端
産業(東レ、東芝、ソニー、コマツ
関連の企業など)が集積し、また、
地場の優良企業が生産・研究活動
を行い、最近では日本ガイシ(株)が
リスク分散を主目的に災害の少な
い本市へ進出しています。また、
最近のスマートフォンの需要の急



北陸最大級の前方後円墳がある「秋常山古墳群」(能美古墳群の一角)

けでは解決できない課題がいろい
ろとある中で本年度からの4年間
を第1次能美市総合計画の総仕上
げの4年間と位置付けし、市民の
皆さまと行政が知恵を出し合い、
力を合わせて課題や問題を解決
し、活力あるまちづくりの推進に
努め、確かな未来を切り開き、次
世代に魅力あふれる能美市をつな
げていければと思います。

プロフィール

- ◆ 面積 83・85km²
- ◆ 人口 4万9731人
- ◆ 世帯数 1万7315世帯

〔将来都市像〕海山川の恵みと人が輝
くやすらぎのまち

〔まちの特徴〕四季を感じる豊かな自
然環境に恵まれたまち、いにしえか
らの歴史・伝統・文化が息づくまち、
健やかな暮らしを支える医療・福祉
環境が整ったまち

〔特産品〕はとむぎ、丸いも、丸いも
焼酎、国造の柚子



能美市長
酒井悌次郎



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



絵付け体験を楽しめる「九谷焼ウルトラマンシリーズ」

携協定を締結した北陸先端科学技
術大学院大学があり、学術研究は
もちろん、民間企業との共同研究
開発をはじめ、内閣府との連携講
座である「地域活性化システム論」
講座や伝統工芸の未来を考えるイ
ノベータ講座などの開催により次
代の世界を開く指導的人材を育成
しています。

子育てにやさしいまち

本市は子育て支援策として子ど

わが

まちづくりは物語作り 「手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬」

「誇れる清瀬」のまちづくり

「手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬」、これは清瀬市のまちづくりのスローガンです。市民みんなが一致団結して、自然豊かな、元気で明るいまちを築いていこうというものです。



世界保健機関指定研究協力センター「公益財団法人結核研究所」

本市には、市内外に誇れる歴史や文化、自然、そして人や施設があります。市内にある気象庁気象衛星センターには、気象庁の心臓部であるスーパーコンピュータがあり、天空を周回する気象衛星ひまわり7号のデータを受け、天気予報の基が清瀬で作られています。

また、公益財団法人結核研究所では、世界各国の医療研究者が研修を受け、今でも世界を結核という病気から守っています。ほかに、東京スカイツリー®のデザインを監修され、本市名誉市民でもある彫刻家の澄川喜一先生、そして、その工事を担当した大林組の技術研究所など、清瀬には多くの光り輝く宝が存在しています。こうした光る宝を生かし、市民の皆さんとともに「誇れる清瀬」のまちづくりを進めています。

素敵な個性ある清瀬の物語

本市にはかつて多くの結核療養所があり、「医療のまち」としての歴史があります。そして、現在でも、前述の通り、世界を結核の蔓延から守るべく、世界保健機関(WHO)が指定する研究協力センター「結核研究所」をはじめ、多くの医療機関や福祉施設があります。

その中の一つである結核予防会複十字病院の工藤院長先生から、「杖に巻きつけた蛇は医療のシンボルです」と教えていただきました。だとすれば、巳年の今年は世界を結核から守る医療のまち清瀬にとって、まさに清瀬祝福の年だと思っ

清瀬市は女子サッカーの会場となります。12年に一度の清瀬大祭の年、巳年の国体であることも考え合わせると、サッカー会場が本市に決定したことは、まさにサッカーの「ゴールシュート」のように、正鵠を射たものであると考えています。

自分たちのまちの歴史を確認し、物語を築いていくときだからこそ、こうした裏付けが、素敵な個性ある清瀬の物語を豊かにしていきつてくれています。

清瀬市には見えない超大蛇と見える大蛇が鎮座しています。見えない超大蛇とは世界を守る医療のことです。そして、見える大蛇が国体のサッカー会場の近くの双木にかかる、藁で編んだ16mの「ふせぎ」という大蛇です。これも約200年間、病魔から村人を守っています。

さらに発展する清瀬の物語

平成24年の国際結核研修50周年記念式典で結核予防会顧問の島尾

先生は、「世界の結核関係者は清瀬を『心の故郷』と語っている」と秋篠宮妃殿下の御前で話されました。作曲家メンデルスゾーンの作品に「真夏の夜の夢」がありますが、私の頭の中には夢、幻想が広がっています。でも、まったく根拠のない夢話でもありません。

本年8月、結核研究所の第51回国際結核研修閉講式に出席してきました。今回の研修には、ケニア、スーダン、ミャンマーなど10カ国から14人の医師が5月13日に本市に來られて、3カ月の結核研修を受けられたのです。今に至る51年間の研修生の累計は、医師、検査技師など、97カ国で約2100人以上になります。だから、結核研究所は、「ニューズレターフロムキヨセ」を英語文で海外約2000人に送っています。こういうとんでもなく凄い研究所が本市にはあるのです。

市長に就任以来、結核研究所の極めて尊い価値が分かってきたので、今回研修に來られた方々を医療、医学のシンボルである「下宿の『ふせぎ』」にご案内しました。そして、近くにある「せせらぎの家(古民家)」でお茶会を開いておもてな



東京都指定無形民俗文化財である「ふせぎ」

しをしました。皆さん本当に喜んでくださり、パプアニューギニアのお医者さんなどは握手した手を離さないくらい感激してくれました。さて、WHOの統計では、いまだに世界の結核による死亡者は年間140万人に及ぶとされ、その対応が急がれています。結核研究所には「かつての結核病字はこのような病理所見を観察し、記録し、考察を加えることで発展してきたものであり、戦前のこの道の多くの先達たちによる血の滲むような苦勞の跡を知る思いがする(岩井結核研究所名誉所長)」世界的に貴重な資料が保存されています。

「対象になるのでは!」と突如ひらめいてしまいました。結核研究所をはじめ、BCG研究所、複十字病院、東京病院などを中心とする病院街、旧都立清瀬小児病院跡地の松林など、本市の松山・竹丘・梅園地区は世界医療文化遺産といえるのではないかとこの夢が離れなくなりました。今年の夏の暑さのせいでしょうか。それとも正夢?

もちろん大前提は 防災減災です

日本は自然大変化列島です。市民の安全安心を最優先し、変化に素早く対応できるように、常に備えの万全に努め、そして本市のスローガン「手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬」を目指して、市民の皆さん、議会の皆さんとともに行政職員一体となって努力していきます。

プロフィール

- ◆ 面積 10・19km²
- ◆ 人口 7万4067人
- ◆ 世帯数 3万3723世帯

〔将来都市像〕手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬

〔まちの特徴〕水と緑に恵まれた豊かな自然環境、生鮮野菜を供給する都市農業、多くの医療・福祉施設など、程よい快適性と程よい利便性を兼ね備えたまち

〔特産品〕ニンジン、ハウレンソウ、



清瀬市長 渋谷金太郎



にんじんジャム、にんじん焼酎「君暮らす街」

〔観光〕柳瀬川回廊、キヨセケヤキロードギャラリー、清瀬市郷土博物館、日枝神社・水天宮

〔イベント〕きよせカタクリまつり、きよせの環境・川まつり、清瀬ひまわりフェスティバル、きよせ市民まつり、石田波郷俳句大会

※面積は国土地理院「全国道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「みんなでいっしょに大作戦」を展開し、魅力ある半田市、元気な半田市に!!

「山車」「蔵」「南吉」「赤レンガ」のまち半田

半田市は、名古屋市の南、知多半島のほぼ中央に位置しています。天然の良港「衣ヶ浦」を利用して海運業が発達し、江戸時代には、醸造・織物・製塩などの産業が隆盛して、古くから知多半島の政治・



5年に1度総勢31輛の山車が一堂に会する「はんだ山車まつり」

経済・文化の中心都市として発展してきました。

そのような歴史に支えられ、発展を続ける半田市を象徴するのが「山車」「蔵」「南吉」「赤レンガ」であります。

江戸時代から続く半田の春祭り、各地区において曳き回される「山車」は、「だし」あるいは「やまぐるま」とも呼ばれ、精緻を極めた彫刻、豪華な刺繍幕、精巧なからくり人形などを備え、それを曳き回す勇壮な姿は市民の誇りであります。市内に31輛ある山車が、5年に1度一堂に会する「はんだ山車まつり」は壮観であり、平成24年10月に開催された「第7回はんだ山車まつり」には、2日間で延べ53万人の観光客が訪れました。

また、江戸時代に、酒・酢や米などを江戸に積み出すために造ら

れた半田運河が今も残り、運河沿

いには、当時造られた黒板囲いの「蔵」が建ち並び、醸造業や海運業で栄えた半田の歴史を物語っています。ほかに甘酸っぱい酢の香りが漂うこの一帯は、環境省の「かおり風景100選」にも選ばれています。

さらに、本年、生誕100年を迎えた児童文学者「新美南吉」は、半田で生まれ育ち、郷土をこよなく愛した作家でありました。

すべての小学校4年生の国語教科書に掲載されている『こんぎつね』をはじめ、心温まる数々の童話や、小説・戯曲・詩・童謡など、数多くの作品を世に送り出しました。『こんぎつね』に登場する矢勝川沿いには、毎年9月下旬以降、200万本の彼岸花が咲き誇ります。

また、現存するレンガ造り建物

として全国屈指の規模を誇り、国の登録有形文化財に登録されている「半田赤レンガ建物」は、明治31年に「カプトビール」の製造工場として建てられました。当時、大都市の4大ビールメーカーがほとんどのシェアを占めていた時代に、「カプトビール」で地方都市から果敢な挑戦をした半田の先人たちの偉業を今に伝えています。

「市民が主役のまちづくり」を目指した4年間

私は、平成21年6月に市長に就任して以来、「行政主導のまちづくり」から脱却し、「市民が主役のまちづくり」を目指して4年間市政運営に取り組んできました。

まず、地域が主体となつて地域課題やまちづくりに取り組めるよう「市民活動助成金制度」の創設などにより、市民の皆さまが積極的に活動に取り組み、地域課題の解決に向け自主的・主体的な地域活動が行っていきける環境を整えまし

た。さらに、「総合計画市民評価制度」の導入や「補助金判定会議」に市民委員の参加を進めるなど、市の主要事業や補助金支給について、市民目線でチェックをしていただき、施策や事業に反映してきました。

また、保育園や幼稚園の保育料の負担を軽減するため、平成22年度から保育料の2子目以降無料化を行い、子育てをする家庭の経済的支援を実施し、安心して子育てができる環境を整えました。

さらに、徹底した事務事業の見直しを行い、地方債の発行抑制などに努めた結果、平成20年度末に840億円あった地方債等残高を、本年3月末現在で675億円に縮減できました。また、平成20年度末に98・24%であった市税収納率



矢勝川に咲く200万本の彼岸花

(現年課税分)も、本年3月末現在で99・14%に向上し、財務体質の強化を図ることができました。

市民の力を結集し、「住みよいまち」訪れたくなるまち「半田市」に!

2期目のスタートに当たり、私が取り組むべき施策は3つあります。

まず、南海トラフを震源域とする巨大地震対策をはじめとした「防災・減災」であります。災害時の緊急避難施設となり復興拠点施設となる新庁舎の建設、国・県への海岸・河川堤防強化の働き掛け、自主防災組織の強化など市民の皆さまの生命・財産を守るための施策を展開します。

次に、子育て世代の親と未来を担う子どもたちを支援していくための「教育・子育て」であります。保育料2子目以降の無料化継続、子ども医療費助成制度の拡充や、子どもたちが将来に夢を持ち、その夢を実現していくためのキャリア教育を推進します。

そして、「山車」「蔵」「南吉」「赤レンガ」という観光資源を活用した「観光振興」であります。半田運河周辺の魅力向上、南吉の里の景観

保存と整備、半田赤レンガ建物の整備を実施することで、回遊性を高め、訪れたくなるまち、そして市民一人一人が郷土に愛着と誇りを持って暮らすことができるまちにしていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 47・24km²
- ◆ 人口 11万9450人
- ◆ 世帯数 4万8009世帯

〔将来都市像〕次代へつなぐ市民協働都市・はんだ

〔まちの特徴〕 絢爛豪華な31輛の「山車」、半田運河沿いの趣ある黒板囲いの「蔵」、童話『こんぎつね』で知られる作家の「新美南吉」、そして明治時代の息吹を伝える「半田赤レンガ建物」のまち



半田市長 榊原純夫



〔特産品〕酒、酢、カプトビール、尾州早ずし、知多半、串あさり
〔観光〕新美南吉記念館、半田赤レンガ建物、半田運河沿いの蔵の町並み、亀崎潮干祭り(国指定重要無形民俗文化財)
〔イベント〕はんだ山車まつり(5年に1度開催)、はんだ蔵のまち桃の節句、春の山車祭り、新美南吉生誕100年『こんの秋まつり』

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

あすに向かって人の花咲く やすらぎ空間・阿波市を目指して

はじめに

徳島県の中央部に位置する阿波市は、平成17年4月1日に阿波郡の市場町と阿波町、板野郡の土成町と吉野町という郡を越えた4町合併で誕生しました。北には阿讃山脈、南には吉野川を臨み、農業生産の盛んな豊かな土地が広がっています。市内には、国の天然記念物で、自然の雄大さを誇る奇勝「阿波の土柱」や、四国霊場八十八ヶ所の七番から十番までの札所があり、県内外から訪れる多勢の方々の心を癒やしています。

本市では、これらの特性・資源を生かし、すべての市民の参画と協働の下、魅力あるまちを築くため、平成19年3月に第1次阿波市総合計画「わたしの阿波未来プラン」を策定し、市の将来像である「あ

すに向かって人の花咲くやすらぎ空間・阿波市」の実現に向け、市民を主人公としたまちづくりを進めてまいりました。

また、本プランの後期基本計画策定にあたり実施した市民アンケートでは、阿波市に「愛着を感じている」との回答が80・8%、「住み続けたい」との回答が85・7%に上っており、この結果を踏まえて、平成24年3月に策定した後期基本計画では、これらの愛着度や定住意向を維持し、さらに高める視点に立って、各種施策に取り組んでいます。

新庁舎などの整備

本市は現在、市民サービスの向上と、行政運営の効率化を促進し、市の一体感の醸成を図るため、東西20kmに広がる本市の中心に位置する

市場町切幡地区約4万3000㎡の敷地に、新庁舎および交流防災拠点施設、阿波市学校給食センターを、平成26年度の完成を目指して整備を進めています。

新庁舎は、阿波市らしさをテーマに、阿讃山脈の山並みや田園風景と調和した外観とし、免震構造とするとともに、太陽光発電や雨水の再利用など維持管理も考慮した設計としています。また、市民の利便性を考え、ワンストップ窓口やユニバーサルデザインを積極的に採用しています。

交流防災拠点施設は、平常時には、イベント開催やサークル活動ができるよう、多目的ホールや交流スペースなどを備え、市民が集い、語らい、絆を深められる施設として、また、災害時には、災害ボランティアの活動拠点や支援物



新庁舎および交流防災拠点施設の外観イメージ図

学校給食センターでの地産地消と食育推進

資の流通拠点として柔軟な利用ができる施設としています。

学校給食は現在、運営が異なる3つの給食センターから提供されていますが、阿波市学校給食センター完成後は、市内の小・中学校に加え、幼稚園にも一体感のある統一した献立での提供が可能となります。施設内には、研修室や調理過程を見学できる廊下を設け、子どもたち

や食材を提供していただく市内の農家の方など、市民が食について学べる拠点にしたいと考えています。

また、地産地消の流通システムを構築するため、平成24年度に阿波市学校給食地産地消推進計画を策定しました。この計画に基づき、将来を担う子どもたちに、食材の安定供給と市内産の新鮮で安心・安全な農産物を学校給食に提供できるように取り組んでまいります。

子ども子育て支援

本市では、子育て支援を充実し、「子どもを育てやすいまちづくり」を進めています。子どもたちが安心して教育と保育が受けられる切れ目のない子育て支援環境の構築を図っており、幼稚園と保育所の老朽化対策と統廃合の方針に併せ、幼保連携施設整備に取り組んでいます。ソフト事業でも、県下で最



市民協働による桜の植樹

も低い保育料などの利用者への経済的支援に加え、子育て支援センター、放課後児童クラブ

プの充実、ファミリーサポートセンターの運営を行っています。

また、現在、市内すべての小・中学校の耐震補強工事と併せて、外装や床、教室などもリフォームする、県内でも類を見ない大規模改修工事を実施し、生徒たちに安全で快適な教育環境を提供できるように取り組んでいます。

将来を見据えたやすらぎ空間づくり

市内を東西に走る阿讃山麓広域農道沿いには、阿波の土柱をはじめ、金清自然公園、四国霊場札所、御所のたらいうどんなど、多彩な観光資源が点在しています。これらを線で結び、さらには面的広がりを持たせた活用を図るため、平成24年度から5年計画の「やすらぎ空間整備事業」をスタートし、市民と協働で、桜、あんず、すももなどを植栽する、花も実もあるまちづくりに取り組んでいます。初年度は、市内5カ所に市民延べ360人の参加により、約400本の植樹を行いました。本取り組みは、市民の間に浸透し始めており、本年度は、市民から要望のありました個所にも植樹範囲を広げていく予定です。

プロフィール

- ◆ 面積 190・97km²
- ◆ 人口 4万0333人
- ◆ 世帯数 1万5038世帯

〔将来都市像〕あすに向かって人の花咲くやすらぎ空間・阿波市

〔まちの特徴〕阿讃山脈と吉野川に囲まれた豊かな自然、輝かしい歴史や伝統に培われたまち

〔市町村合併(平成11年3月末以降)〕平成17年4月1日に、旧吉野町・旧土成町・旧市場町・旧阿波町のあわ北4町の合併により誕生



阿波市長 野崎國勝



- 〔特産品〕たらいうどん、イチゴ、吉野レタス、ナス、ブドウ、ボンダリン、洋ラン、スイカ、スイートコーン、トマト
- 〔観光〕阿波の土柱、阿波土柱の湯、御所のたらいうどん、天然温泉「御所の郷」、道の駅「どなり」
- 〔イベント〕阿波deフェスタ、阿波シティマラソン、花フェスタランランフェア、空海の道ウォーク、やねこじき、阿波オープンガーデン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。